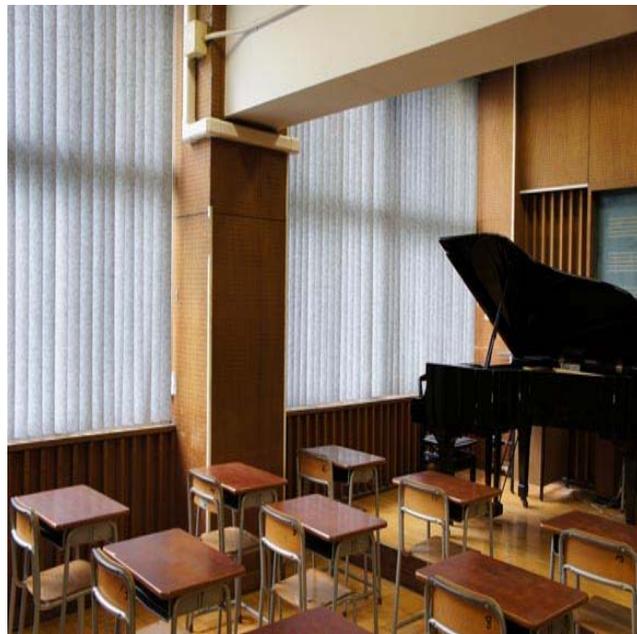


音楽室（学校）の防音対策事例

《背景》

最近の設計で建設された音楽室は、一般に音楽を聴取することが目的であるが、残響時間が大きく、音が割れる等の不具合があります。

防音くん室内吸音用を使用すれば簡単な工事で音環境の改善が可能で今回は都立高等学校の音楽室の事例を示します、この高校はほかにも会議室、普通教室にも全面的に吸音ブラインドが採用されました。



(対策後)

《仕事の流れ》

- ① お客様都立高校で音楽室の吸音性が不足し音割れが起こり改善してほしいとの要望あり。
- ② お客様の要望を満たす構造（吸音ブラインド）を提案。
- ③ 検討結果を報告し、お客様の了解を得た後、内装工事を受注（当社関連会社）。
- ④ 防音材構造物を出荷、現地に取り付けの内装工事実施。
- ⑤ 再度、残響時間測定し残響時間が最適値になっていることを確認。

《効果》

設置前：残響対策がなされておらず、床・壁・天井のほか、机の表面での音の反響も大きい状態。

測定の結果、残響時間の周波数特性は悪かった。

設置後：残響時間が0.6～0.4秒程度に改善され、音楽室として優れた残響時間レベルとなった。（薄手のカーテンでは効果が少ない）

